試験開始の指示があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

共立女子大学・共立女子短期大学
2023年度入試　2月5日
国　語

注意事項

1. この問題冊子は18ページあります。

大問	科目	ページ	選択方法	
一	現代文	1～8	必答問題	
二	現代文	9～14	選択問題	選択問題は出願時に登録した問題，いずれか1問を選択し，解答しなさい。
三	古文	15～18	選択問題	

2. 万一，落丁などがある場合は直ちに申し出ること。
3. 解答用紙は記述式解答用紙とマークシート解答用紙があります。問題文の指示に従って解答すること。
4. 解答用紙には座席番号・氏名を必ず記入すること。
5. 解答用紙に，正しく記入・マークされていない場合は，採点できないことがあります。
6. 選択問題は出願時に登録した問題を解答すること。登録以外の問題を解答した場合は無効となります。
7. マークシート解答用紙の記入に当たっては，HBの鉛筆またはマークシートペンを使用すること。（シャープペンシルは不可）
8. マークシート解答用紙に記載の「記入上の注意」をよく読んでから解答すること。
9. マークシート解答用紙の解答欄については，例えば，［10］と表示のある問に対して㋒と解答する場合は，次の（例）のように，10の解答欄の㋒にマークしなさい。

（例）

解　答　欄	
10	㋐㋑●㋓㋔㋕・・・・・・・

10. 試験終了後，試験問題は持ち帰ること。

国　語

<table>
<tr><th>大問</th><th>科目</th><th colspan="2">選択方法</th></tr>
<tr><td>一</td><td>現代文</td><td colspan="2">必答問題</td></tr>
<tr><td>二</td><td>現代文</td><td>選択問題</td><td rowspan="2">選択問題は出願時に登録した問題，いずれか１問を選択し，解答しなさい。</td></tr>
<tr><td>三</td><td>古文</td><td>選択問題</td></tr>
</table>

（必答問題）　一　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（解答番号は 1 ～ 13 ）

ここ10年程の間、学問の世界では「ポスト・ヒューマン」という概念・言葉がキーワードになってきていました。これは、近代＝人間中心主義（ヒューマニズム）の時代が終わったという時代認識を示しています。

前近代が神中心の時代だったのに対して、近代は人間中心の時代である。人間を世界の中心に据えたからこそ、「神をも畏（おそ）れぬ」仕方で自然に手を入れられるようになり、自然の法則を解明してそこに介入する技術が飛躍的に発展してきました。その結果、私たちの日常生活の有り様は、次々に激変してきたわけですが、多くの場合、これらの変化は「便利で安全で快適になった」ととらえられています。

こうして技術発展の万能性がシンポウ（ア）されるようになると、今度は世界の中心を占めるのは人間ではなく科学技術である、ということになってきます。こうした考え方の典型が、ＡＩ（人工知能）は人間を超えるといったような議論です。一部の論者によると、人間がやってきたさまざまな知的活動は、ＡＩによってことごとくとって代わられるのだそうです。もう人間は「世界の中心」ではない――これが「ポスト・ヒューマン」という言葉の核心にある考え方です。

［ X ］、「ポスト・ヒューマン」は同時に、極端なまでの人間中心主義（ヒューマニズム）でもあるのです。なぜなら、科学技術をつくり出すのはもちろん人間なのですから、科学技術が万能だとすれば、それは人間の万能性を意味するからです。

ただし、「ポスト・ヒューマン」を脱人間中心主義と見るにせよ、究極の人間中心主義と見るにせよ、ひとつのことは確実に言えると思います。それは、「ポスト・ヒューマン」とは、①「他者としての自然」が消滅した状況を指している、ということです。ここで言う「他者」とは、「自分の思う通りにはどうしてもならない相手」というような意味だととりあえず了解してください。近代の人間中心主義は、自然の他者性をどんどん縮減してきました。たとえ自然の成り立ちにわからないところがあっても、それは「まだ」わからないにすぎない（＝いつか必ずわかる）ものとしてとらえられるわけで、近代自然科学は自然の他者性を原理的には消去しているわけです。

こうして、近代の始まりと同時に自然の他者性は原理的に縮減し始めたわけですが、現代世界で起こった重要な変化は、人間の外界としての自然だけでなく、私たちの内なる自然、つまり「自然としての人間」に対する態度が変わってきた、ということです。それは、自然物としての人間に対して手を入れる技術が飛躍的に発展してきたことと関係しています。臓器移植、遺伝子治療、遺伝子操作、脳科学による脳の操作等々、「生命の神秘」にかかわる領域の操作可能性が大幅に高まってきたのです。

これらの新しい技術発展による人間の身体に対する操作可能性は、近代社会が約束事として合意してきた「人間とは何か」という定義とぶつかり、その定義によって支えられてきた社会的ルールを揺るがせ、倫理的な葛藤を生じさせることになります。

例えば、「人間には理性がある（ゆえに、善悪の判断ができ、したがって罪を犯したときには責任を問われる）」という定義は、脳科学の使い方次第で変更可能になります。あるいは、人間の生殖・出生は操作できないからこそ、一人一人の人間の人としての価値には区別をつけられず、したがってあらゆる人間に対して等しく人権が認められるべきだという考えが通用してきたと思われますが、②遺伝子操作によって生殖・出生に介入できるとなると、この考えが揺らいでくることにもなるはずです。どんな子供が生まれてくるかは偶然にユダネルほかないという意味で、生殖・出生はまさに強固な他者性を有していたはずなのですが、それが消滅しつつあるのです。いずれのケースも、ある人々を「Q 人間」と認定して社会から排除する（あるいは生まれさせない）ような状況が生じてくる可能性をシサしています。

総じて言えば、AIをめぐる狂騒、遺伝子テクノロジーをめぐる狂騒といった、喧伝されてきた「外なる自然の征服」と「内なる自然の征服」のプロジェクトは、新技術によって「より便利で安全で快適な暮らし」が可能になることを夢見させつつ、私たちの懐いてきた人間の定義をグラグラと揺るがせるがゆえに、漠然とした不安の感情を行き渡らせてきたように思われます。

私の考えでは、新型コロナによる危機が吹き飛ばしたのは、こうした「人間の開発した技術は世界の謎を解明し尽くして、思うがままに自然を改変することができる」といった観念ではなかったでしょうか。繰り返しますが、感染症に対する人類の知識が限られていることには、驚きを禁じ得ません。新型コロナ危機に促されて、私も専門家が書いた本を読むなど感染症に関するにわか勉強を少々してみましたが、そこですぐにわかったことは、「感染症というものはよくわからないものだ」ということでし

た。

【中略】

こうした現実は、「私たちは自然を征服した」という「ポスト・ヒューマン」の観念を吹き飛ばすに十分なものではないでしょうか。ＡＩが人間の思考を無用のものとする日を想像するよりも、ウイルスの変異メカニズムや、新型コロナウイルスをきわめて危険な感染症としている理由であるところの人間の免疫系の過剰反応（サイトカインストーム）の発生メカニズムを解明することの方が、はるかに重大な課題であることは言うまでもないでしょう。

もっと言えば、新型コロナによる危機が訪れる前、③私たちはなぜ、「科学技術による自然の征服」という妄想にとり憑かれていたのか、立ち止まって考えてみるべきではないでしょうか。私たちはいま、④常識に引き戻されたのです。

技術の発展は社会の在り方をどんどん変えてゆく、すなわち社会の在り方はその社会の持つ技術によって決定される、という考え方は「技術決定論」と呼ばれます。新聞記事などでよく見かける「ＡＩの進化によって社会は激変する！」といった考えは、典型的な技術決定論です。技術決定論は、技術を独立変数として設定し、社会の在り方をその関数としてとらえます。そして、技術は進化し続けるものと想定されます。ですから、「ポスト・ヒューマン」の観念も技術決定論の一種、そのかなり極端なヴァージョンであると言えるでしょう。技術は進化し続けて、人間に成り代わって世界の中心になると言うのですから。

しかし、この考え方は真実ではありません。なぜなら、社会はその時々に利用可能な技術をすべて利用するわけではないからです。例えば、日本の江戸時代には、正確に時を刻むことのできる時計がすでにありました。しかしそれは広く使われることはなく、好事家の珍しい玩具として流通しただけでした。なぜなら、江戸時代の人々は、正確な時間を知る必要のある生活を送っていなかったからです。工業社会化しない限り、分単位の正確な時間を知ることなど全く必要ではないのです。

つまり、利用可能な技術のうち、どの技術が用いられ、どの技術が用いられないかを決めているのは、その社会の在り方なのです。このことは、技術の発展にも当てはまります。どんな技術が盛んに発展し、どんな技術が発展しないのかを決めているのは、技術そのものではなくて、その技術を利用する社会の在り方なのです。技術決定論の主張とは逆に、社会の在り方が独立変

数であり、技術はその関数なのです。

※　もちろん、技術が社会の在り方に影響することは多々ありますが、それはその社会の中にすでに存在していたもの、すでに存在している傾向に刺激を与え増幅させる、ということにすぎません。身近な例を挙げるなら、ＳＮＳは衆愚制*を生み出すのではなくて、衆愚制を活気づけ拡大するのです。

技術と社会の⑤こうした関係が転倒して、技術が社会の在り方を決定しているように見えるのは、まさに社会が現実をそのように見せるような在り方をしているからです。そしてそれは、資本主義社会に特有の現象であると考えられます。というのは、資本主義社会では生産力を絶えず向上させることが至上命令になっているからです。「もう十分」とか「ほどほどにしておこう」といった常識に基づく判断は、資本主義社会では通用しません。生産力・生産性を際限なく上げ続けなければならないメカニズムが、ビルトインされているからです。

［Ｙ］、より高度な生産性の実現を求めて、技術革新もここでは際限のないものとなり、それがもたらす社会の変化もカエンダンなきものとなります。しかし、こうして技術革新が社会の在り方を変え続けているように見えるけれども、本当のところは、そうした絶えざる革新を求めているのはその社会の在り方の根本（すなわち、資本主義社会であるという社会の在り方）なのですから、その根本が際限なく強化され続けているだけのことなのです。⑥あらゆるものが変化しているように見えて実は何も変わってはいません。

このように考えてみると、「ポスト・ヒューマン」なる観念が、資本主義の過剰なまでの高度化の産物だということは明らかであるように思われます。端的に言って、それは人間とその社会を技術にレイゾクさせる非常識な考え方であり、その非常識を現代人の逃れられない宿命として押しつけてくるのです。

（白井聡「技術と社会――考えるきっかけとしての新型コロナ危機」）

＊　衆愚制……自覚のない無知な民衆による政治。民主政治の堕落した形態をアリストテレスは衆愚制とよんだ。

問一　波線部ア～オのカタカナを漢字で書きなさい（送り仮名は、ひらがなで書くこと）。解答は記述式解答用紙に記入すること。

問二　空欄 X 、 Y に入ることばとしてもっとも適切なものを次の㋐～㋕から一つずつ選んで記号をマークしなさい。解答番号はX 1 、Y 2 。

㋐　なぜなら　　㋑　しかし　　㋒　ただし　　㋓　では　　㋔　ところで　　㋕　ですから

問三　傍線部①「『他者としての自然』が消滅した状況」とあるが、「他者としての自然」が消滅したとはどういうことか、「ということ」に続くように十字以内で書きなさい。ただし、読点も一字に数えるものとする。解答は記述式解答用紙に記入すること。

問四　傍線部②「遺伝子操作によって生殖・出生に介入できるとなると、この考えが揺らいでくることにもなるはずです」とあるが、それはなぜか。その説明としてもっとも適切なものを次の㋐～㋓から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 3 。

㋐　遺伝子操作は、「自然としての人間」を改変することであり、人としての価値に区別をつけることにつながるから。

㋑　遺伝子操作を行えるかどうかは、経済状況に左右される可能性があり、世代を超えた格差の拡大につながるから。

㋒　どのような遺伝子操作を行うかについて、遺伝子を操作される子どもの意思を反映させることができないから。

㋓　遺伝子操作によって、遺伝的な病気を持った人間を減らすことができ、人の命を平等に近づけることができるから。

問五　空欄 Q に入る一字の漢字と同じ漢字が含まれる語を使った文を次の㋐～㋓から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 4 。

㋐　経済情勢の先行きは □ 透明である。
㋑　個人情報は原則として □ 公開とされている。
㋒　多様性に対する □ 理解が差別を生むこともある。
㋓　展覧会には □ 発表の作品に限り応募可能である。

問六　二重傍線部「ところ」の用法と同じものを次の㋐～㋔から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 5 。

㋐　調べたところでは、指摘されるような問題はなかった。
㋑　幼いころに訪れたところの風景を思い出した。
㋒　思うところあって、地方への移住を決意した。
㋓　我々が抱えているところの問題点について議論した。
㋔　彼の業績は長く世の認めるところとなった。

問七　傍線部③「私たちはなぜ、『科学技術による自然の征服』という妄想にとり憑かれていたのか」とあるが、「妄想にとり憑かれていた」理由としてもっとも適切なものを次の㋐～㋓から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 6 。

㋐　現代の資本主義社会を成り立たせるためには、生産力向上のために絶えず技術革新を続けていかなくてはならないから。
㋑　現代社会の理念である「ポスト・ヒューマン」は技術決定論の一種であり、技術は進化し続けると想定されているから。
㋒　私たちの社会の在り方が、絶えざる技術革新によって思うがままに自然を改変できるという考え方を押し付けてくるから。
㋓　現代社会においては、外界としての自然だけでなく内なる自然に対しても介入できる技術が飛躍的に発展してきたから。

問八　傍線部④「常識に引き戻されたのです」とあるが、ここでいう常識とはどのようなことか。その説明としてもっとも適切なものを次の㋐～㋓から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 7 。

㋐　科学技術は万能ではないということ

㋑　人間はもう「世界の中心」ではないということ

㋒　技術の発展が社会を変えるわけではないということ

㋓　技術は常に進化し続けるということ

問九　「※」の段落の役割について説明した文としてもっとも適切なものを次の㋐～㋓から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 8 。

㋐　前の段落で述べたことに対する反論があることを認めたうえで、具体例を挙げることで反論に対して反駁（はんばく）している。

㋑　前の段落で述べたことに例外があることを認めたうえで、具体例を挙げながら例外が生じる理由を補足説明している。

㋒　前の段落で述べたことに対する反論を想定したうえで、具体例を挙げながら前の段落で述べたことを繰り返している。

㋓　前の段落で述べたことに反するような事柄を取り上げつつ、具体例を挙げながら前の段落の内容を補足説明している。

問十　傍線部⑤「こうした関係」とは、どのような関係か。「という関係」に続くように三十字以内で書きなさい。ただし、読点も一字に数えるものとする。解答は記述式解答用紙に記入すること。

問十一　傍線部⑥「あらゆるものが変化しているように見えて実は何も変わってはいません」とあるが、これはどういうことか。その説明としてもっとも適切なものを次の㋐～㋓から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 9 。

㋐　技術革新によって社会が変化しているように見えるが、技術革新を促しているのは資本主義という社会の在り方であるということ。

㋑　技術革新が社会を変えているように見えるが、どんなに技術革新が進んでも資本主義という社会の在り方は変化していないということ。

㋒　技術革新は、安全性や利便性の点では社会を変化させているが、いまだに資本主義という社会の根本を変化させるには至っていないということ。

㋓　技術革新によって、高度な生産性という面では資本主義社会を変化させているが、社会の中には変化していない部分も多いということ。

問十二　次の①～④の中で、本文の内容と合っているものには㋐、そうでないものには㋑をマークしなさい。解答番号は ① 10 、② 11 、③ 12 、④ 13 。

①　「ポスト・ヒューマン」という観念は、人間のさまざまな知的活動がＡＩにとって代わられるという意味である。

②　ＡＩや遺伝子テクノロジーは、私たちに便利で安全で快適な暮らしを提供するが、漠然とした不安の感情も抱かせる。

③　江戸時代の生活では、正確な時間を知る必要がなかったため、時計を持っていたのは物好きな人たちだけであった。

④　「ポスト・ヒューマン」という観念は、過剰に高度化した資本主義を生み出し、現代人の考え方を束縛している。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれかを選択、解答すること。

（選択問題）**二**　次の文章は内田樹「瞑想のやり方について」の一部です。これを読んで、後の問いに答えなさい。（解答番号は 14 ～ 26 ）

人間の根源的な生命活動のうちで意識的に統御できるのは呼吸だけです。

こう言ってよければ、呼吸は意識と人体のミステリーゾーンの間を「架橋」できるたった一本のチャンネルなんです。心臓の鼓動を操作したり、腸の消化活動を操作したりできる行者（ぎょうじゃ）（注1）でしたら、また違う方法があるんでしょうけれど、われわれ凡人にとっては、心身の奥深くに［A］する唯一の回路が呼吸なんです。だから、世界中の宗教が、瞑想というとまず呼吸法を教えるところから入るのは理にかなっている。

呼吸をして自分の内側に深く沈潜してゆく。いつもは身体の外に向けていた意識をみぞおちの中丹田（ちゅうたんでん）や下腹部の気海（きかい）丹田に向ける。あるいは全身に音声的な響きを通す。あるいは激しい呼気によって心身を浄化する。いろいろなやり方があります。

呼吸法に集中していると「自我」の輪郭がぼんやりしてきます。自我って脳活動の産物ですけれど、すべての器官が酸素を必要としていますから、脳だけに資源を優先配分するわけにはゆかない。［X］、全身の部位に呼吸が浸みわたってゆく様子をイメージしながら深い呼吸をしていると、①まず脳が構築している社会的な自我が弱まってきます。

道場（注2）に来る直前まで仕事とか人間関係のトラブルとかで悩んで、頭を抱えていた人が、数分間深い呼吸をすると、そのことを忘れちゃうんです。「あれ、オレ、さっきまですごく嫌なことがあって悩んでいたんだけど、何だっけ……」というくらいに自我が弱まる。簡単に言うと、瞑想（めいそう）って「自我の支配」から解放されることなんです。

瞑想法のひとつにこんなのがあります。まず「有我有念」から始まる。我有り、念有り、です。うるさい自我がいて、頭の中に

妄念がもやもやと詰まっている。それをある一点に集中させる。例えば、自分の指先に。自分の指先で相手の手首に触れて、触覚的に相手の身体をコントロールするというような技術的な課題を与えると、意識が指先に集中します。それが「有我一念」。

この集中がさらに深まると「無我一念」の境に入ります。「我が相手に触れている」という感覚が消え去る。「我」なんかが出しゃばってきても、今、皮膚の一点で起きていることを精密にモニターする邪魔になるだけですから。

「我」が消えた後に、最終的に［　B　］している対象のものがふっと消失したときに「無我無念」の状態に入ります。我無し、念無し。主体なく、対象もない状態。

そういうふうに段階的に稽古できるんです。瞑想というのは、要するに自分の内側にセンサーを向けて、しだいに深く入って行くことなんです。分子細胞学レベルにまで潜行する。そうすると②自分の社会的性格なんか消えてしまう。

前にフェミニストの人たちの前で「身体論」の講演をしたことがありました。そのときにある女性から「あなたは身体というものをまったく理解していない。私たち女にとって『身体』というのは、何よりもまず自分のジェンダーを意識する経験なのだ」と言われました。「そう思われるのはご自由ですけれど、そういう人は武道にはぜんぜん向いてないですね」とお答えしました。

自分の身体の内側を見つめたときに、「自分が黄色人種であることをまず意識する」とか「自分が日本国民であることをまず意識する」とか「自分がキリスト教徒であることをまず意識する」とかいって、③「そこから先には行けない」という人は悪いけれど、武道にも、瞑想にも向いてないし、哲学者にも科学者にも向いてないです。そういう社会構築的な性質におのれのアイデンティティを釘付(くぎづ)けにして、自我の檻(おり)を強化してもあまり人生楽しいことないですよ。

たしかに人間の身体運用はかなり深いレベルまで社会構築的です。［　Y　］、僕たちが武道を修行したり、瞑想したりするのは、まさにその社会構築的な「縛り」から逃れ出るためなんです。

僕たちは歩き方も表情も発声法も、歴史的に条件づけられている。僕は④能楽の稽古をしていますけれど、あれは中世日本人の身体運用に基づく芸能です。だから、現代人の身体運用とは文法も語彙(ごい)も違う。いわば古語的な身体運用が求められる。

そうやって⑤「古語で身体を使う」稽古をしていると、ふだん自分が自然な身体運用のつもりでしている動きがどれほど歴史的環

境に条件づけられたものか思い知らされます。自分を閉じ込めている「身体の檻」が自覚される。その意味では能楽の稽古も一種の瞑想だと言えます。

（内田樹『コモンの再生』より）

（注1）行者……仏道や神道などの修業のために過酷で超人的な苦行を行う人。修験者。呪術宗教家。

（注2）道場……筆者は合気道の道場を主宰している。

問一　空欄 A 、 B に入ることばとしてもっとも適切なものを次の㋐～㋕から一つずつ選んで、記号をマークしなさい。解答番号はA 14 、B 15 。

㋐ 参与　㋑ 参内　㋒ 参入　㋓ 感応　㋔ 感知　㋕ 感心

問二　空欄 X 、 Y に入ることばとしてもっとも適切なものを次の㋐～㋕から一つずつ選んで、記号をマークしなさい。解答番号はX 16 、Y 17 。

㋐ だから　㋑ どちらにしても　㋒ でも

㋓ 結局は　㋔ たとえば　㋕ 一方で

問三　傍線部①「まず脳が構築している社会的な自我が弱まってきます」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として、もっとも適切なものを次の㋐～㋓から一つ選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 18 。

㋐　呼吸で全身に酸素を浸みわたらせるようにすると、脳が構築する社会的な自我よりも身体的な自我の方が優先されるようになるから。

㋑　呼吸で全身に酸素を浸みわたらせるようにすると、脳が社会的な自我を構築する活動よりも身体の各部位の活動の方が圧倒的に活発になるから。

㋒　呼吸で全身に酸素を浸みわたらせるようにすると、いつもは優先的に酸素が分配されている脳の活動が劣化して、脳が構築する社会的な自我も弱まることになるから。

㋓　呼吸で全身に酸素を浸みわたらせるようにすると、脳への酸素供給が相対的に減少して脳が構築する社会的な自我が弱まり、個人的な自我の構築の方に重心を置くようになるから。

問四　傍線部②「自分の社会的性格」とは**言えないもの**を次の㋐～㋕の中から**二つ**選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 19 。

㋐　自分は女性である。

㋑　自分は日本生まれだが、外国籍である。

㋒　自分は身長が高く、足が速い。

㋓　自分は父親が経営する会社の社員である。

㋔　自分は仏教徒だと自認している。

㋕　自分は写真を撮るのが好きだ。

問五　傍線部③「そこから先には行けない」とあるが、それはどういうことか。その説明として、もっとも適切なものを次の㋐～㋓から一つ選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 20 。

㋐　頭脳が作り出した社会的な自我の「檻」に囚（とら）われて、身体の内側の奥を深く見通すことができない。

㋑　身体の奥にあるものを見ようとせずに、社会的な自我を拡大しようとだけ考えて前へ進めない。

㋒　頭脳が作り出す社会的な自我だけを大事にして、身体的な自我の発達を考えようとしない。

㋓　身体の内側を見つめる方法が間違っているために、社会的な自我の「檻」に囚われて動くことができない。

問六　傍線部④「能楽」についての理論書として有名な、世阿弥の著作名を次の㋐～㋔から一つ選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 21 。

㋐　方丈記　　㋑　吾妻鏡　　㋒　風姿花伝　　㋓　五輪書　　㋔　玉勝間

問七　傍線部⑤「古語で身体を使う」とは、どういうことか。その説明として、もっとも適切なものを次の㋐～㋓から一つ選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 22 。

㋐　能楽のように古語で演じられる芸能は、古語の韻律に沿って身体を使い、動かさなければならない。

㋑　能楽の動きは古語のように古いものなので、新しい解釈を入れずに身体を使わなければならない。

㋒　能楽のように歴史のある芸能は、古語を語るように演じ、身体を使わなければならない。

㋓　能楽における動きは古語のように歴史的な意味合いを持っていて、それを意識しながら身体を使わなければならない。

問八　次の①～④の中で、本文の内容と合っているものには㋐、そうでないものには㋑をマークしなさい。解答は① 23 、② 24 、③ 25 、④ 26 。

① 「自我」は脳活動の産物なので「身体」の活動とは性格が異なり、酸素の優先分配を主張しがちである。

② 冥想によって「有我有念」から「無我一念」へ、そこから「無我無念」の境へと進む方法がある。

③ 「何よりもまずジェンダーを意識する」という、「身体」に対する考え方は間違っている。

④ 能楽の稽古における身体運用は、歴史的環境の相違により現代人のそれとは大きく異なっている。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれかを選択、解答しなさい。

（選択問題）**三**　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（解答番号は 14 ～ 27 ）

鳥羽(注1)の宮、天王寺の別当にて、かの寺の五智光院に御座ありける時、鎌倉(注2)の前の右大将参ぜられたりけり。三浦十郎左衛門義連・梶原景時ぞ供には侍りける。御対面の後、退出の時、尪弱(注3)の尼一人いできたり、右大将に向ひて、ふところより文書を一枚とりいだして云はく、「和泉の国に相伝の所領の候ふを、人に押し取られて候ふを、沙汰し候へども、身の尪弱に候ふによりて事ゆかず候ふ。たまたま君御①上洛候へば、(A)申し入れ候はんと仕り候へども、申しつぐ人も候はねば、ただ直に見参に入り候はんとて参りて候ふ」とて、その文書を捧げたりければ、大将みづからとりて見給(B)ひけり。「文書のごとく、一定相伝の主にてあるか」と問はれければ、「いかでか偽りをば申しあげ候ふべき。御尋ね候はんに、②さらにかくれあるまじ」と申しければ、義連に「硯たずねて参れ」と仰せられて、尋ね出して参りたりければ、墨をしすりて筆染めて、うち案③じて、わが持ち給ひたりける扇に一首の歌を書き給ひける。

Ⅱ いづみなる信太の杜のあまさぎはもとの古枝に立ちかへるべし

かく書きて、義連に「これに判加(注4)へて尼にとらせよ」とて、なげつかはしたりければ、義連、判加へて尼にたびてけり④。年号月日にもおよばず、右大将殿自筆の御書下しなれば子細にやおよぶ、もとのごとく、かの尼領知しけるとぞ。

その後、右大臣(注5)家の時、件の尼がむすめ、この扇の下文をささげて沙汰に出て侍りけるに、(C)年号月日なきよし奉行いひけれども、かの自筆そのかくれなきによりて安堵しにけり。

件の扇、檜の骨ばかりは彫りて、そのほかは細骨にてなん侍りける。まさしく見たるとて、人の語り侍りしなり。

（『古今著聞集』「和歌」）

（注1）　鳥羽の宮……後白河天皇の皇子、浄恵。天王寺の別当に就任し、鎌倉将軍代々の霊牌を安置することになる五智光院にいる。
（注2）　鎌倉の前の右大将……源頼朝。一一九〇年に右大将。
（注3）　尪弱の尼……弱々しい様子の尼。
（注4）　判……書き判（花押）を加えること。
（注5）　右大臣家……源実朝。一二一八年に右大臣。

問一　傍線部①～④の解釈としてもっとも適切なものを、それぞれ次の㋐～㋓の中から選んで記号をマークしなさい。解答番号は①［14］、②［15］、③［16］、④［17］。

①　上洛候へば
㋐　東京に上りましたところ　㋑　鎌倉に上りましたところ
㋒　京都に上りましたところ　㋓　大阪に上りましたところ

②　さらに
㋐　ますます　㋑　もう一度
㋒　もちろん　㋓　決して

③　案じて
㋐　心配して　㋑　考えて
㋒　不憫で　㋓　困って

④　たびてけり
㋐　いただいたのだった　㋑　くれてやったのだった
㋒　売ってしまったなあ　㋓　盗ませたそうだ

問二　傍線部(A)「申し入れ候はん」、(B)「給ひけり」、(C)「侍りける」の敬語の種類としてもっとも適切なものを、それぞれ次の㋐～㋒の中から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は(A) 18 、(B) 19 、(C) 20 。

㋐　尊　敬　　㋑　丁　寧　　㋒　謙　譲

問三　二重傍線部a「参ぜられ」、b「候へども」、c「あるまじ」の活用形を、それぞれ次の㋐～㋕の中から選んで記号をマークしなさい。解答番号はa 21 、b 22 、c 23 。

㋐　未然形　　㋑　連用形　　㋒　終止形　　㋓　連体形　　㋔　已然形　　㋕　命令形

問四　点線部I「いかでか偽りをば申しあげ候ふべき」の解釈としてもっとも適切なものを、次の㋐～㋓の中から選んで記号をマークしなさい。解答番号は 24 。

㋐　なんとかして嘘を申し上げたいと思うのです。
㋑　いつでも嘘を申し上げることができるのです。
㋒　いままで嘘を申し上げたことなどありません。
㋓　どうして嘘を申し上げることができましょうか。

問五　点線部Ⅱの和歌の下の句「もとの古枝に立ちかへるべし」の解釈としてもっとも適切なものを、次の㋐～㋓の中から選んで記号をマークしなさい。解答番号は 25 。

㋐　尼は生まれ故郷に帰ることができそうだ。
㋑　尼は還俗（げんぞく）して相伝の所領を守るに違いない。
㋒　尼は返還された相伝の所領に戻るのが良い。
㋓　尼は修行のために古寺で暮らすべきだ。

問六　問題文の内容と合致するものを、次の㋐～㋓の中から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 26 。

㋐　鳥羽の宮が別当をつとめる天王寺で、卑賤な尼の直訴を許した義連、景時は、頼朝に警備が甘いことを詰問された。
㋑　尼は、和歌山に先祖代々の土地を持っていたが、他人に取られた上に、裁判をおこしてもうまくいかなかった。
㋒　扇の和歌には日付が書かれていなかったが、紛れもなく頼朝自筆であったため、土地の領有権の証文となった。
㋓　尼の娘の代には、扇の紙が破れ骨だけとなったため、裁判にあたった奉行は土地の領有権を承認しなかった。

問七　問題文である『古今著聞集』の編纂（さん）者を、次の㋐～㋔の中から選んで記号をマークしなさい。解答番号は 27 。

㋐　源　順　　㋑　松尾芭蕉　　㋒　藤原定家　　㋓　鴨長明　　㋔　橘成季